

離島におけるたまり場のつくられ方と使われ方の特性に関する研究
 一集落内の外出行動と近隣関係の相互作用を視点として一

A STUDY ON THE CHARACTERS OF HOW SPENDING PLACE IS MADE AND USED IN
 REMOTE ISLAND

-FROM THE VIEWPOINTS OF INTERACTION BETWEEN THE OUTDOOR BEHAVIOR AND
 THE RELATION OF NEIGHBORHOOD IN THE VILLAGE-

建築計画分野 田村優一
 Architectural Planning Yuichi TAMURA

人口減少や少子高齢化を背景に地域コミュニティの希薄化が問題となっている。とりわけ離島では周囲を海に囲まれているという地理的条件などからそれが顕著であり、そのような縮減化する地域における地域コミュニティの維持は喫緊の課題となっている。そこで地域のたまり場が地縁血縁などの住人同士の様々な関わり合いによって生まれる豊かな生活を形成する仕組みの一つとなっていることに着目し、たまり場のつくられ方や使われ方の特性を明らかにした。

There are the problems such as the dilution of local communities in the background of depopulation and decreasing birthrate and aging population. Especially, it is clear in the remote island with geographical condition surrounded with the sea as a cause, and keeping local community is an urgent challenges to be solved in reducing local community. Accordingly, I focus on that spending place in the local area is one of the systems creating affluent life made by blood relationships and shared territorial bonding, and showed characteristic of how spending space is made and used.

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

人口減少や少子高齢化を背景に、地域コミュニティの希薄化が問題となっている。とりわけ過疎地域において深刻だが、中でも離島では周囲を海に囲まれているという地理的条件などにより高齢者比率が33%と他の過疎地域と比較しても顕著である¹⁾。地域との関わりが少ないことは、高齢者の孤独死や引きこもりといった問題を深刻化させ、地域独自の特色や文化などの損失、自然環境の維持機能の弱体化にもつながる。

そんな中、研究対象である加計呂麻島では住人のたまり場が縮減化する地域の中で住人の生活の質を高めることができるような仕組みの一つとなっている。そこで本研究では人が「たまる」ことに着目し、たまり場のつくられ方や使われ方の実態とその特性を明らかにすることを目的とする。

1.2 調査対象

以下の5箇所をたまり場として扱う(図1)。

1.3 研究の位置づけ

既存施設の使いこなしのみではなく、住人自らが形成するたまり場のつくられ方や使われ方、またそれによってできるコミュニティを明らかにすることで縮減化する地域におけるたまり場の意義について述べる。

1.4 調査方法

住人自らがたまり場を製作しており、温暖な気候などからたまる慣習などが色濃く残っている加計呂麻島を選定した。その中で住人が日常的に過ごすたまり場所が数多くあり、それが生活の様々な場面で利用されている集落を対象に、たまり場のつくられ方や使われ方に関する住民への現地ヒアリング調査ならびに涼み場、商店、バス停の実測調査を行った。

2. たまり場のつくられ方とその特性

たまり場のつくられ方の実態と特性を述べる(表3)。

2.1 商店

表1 調査対象地概要

集落	人口	世帯数	ヒアリング対象者	主な施設
花富	41	57	15人	商店、バス停、ゲートボール場、公民館
於齊	32	48	7人	商店、バス停、ゲートボール場、公民館
生間	41	67	5人	商店、バス停、ゲートボール場、公民館、フェリー乗り場、レンタカー屋、ガソリンスタンド
薩川	35	59	7人	商店、バス停、ゲートボール場、公民館、小学校、中学校、グループホーム

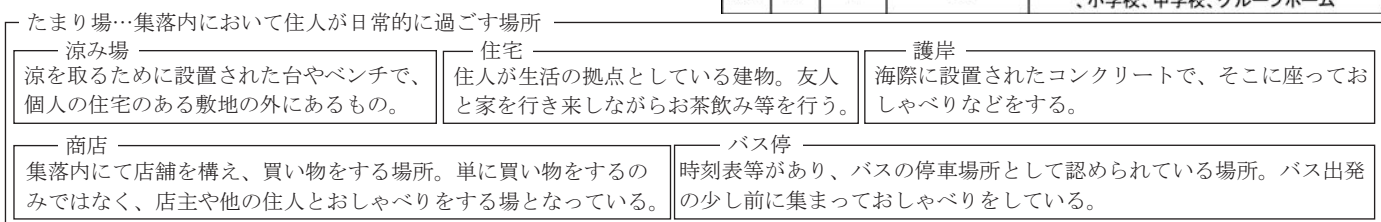


図1 調査対象

KS では座るためのしつらえを製作しておらず、店内に段差がある程度である。それに対して IS や SS では店舗の軒先の屋根の下に住人が製作したしつらえが設置されており、積極的に過ごす場所を作っている。

2.2 バス停

集落や町が整備したものと住人が製作したものがあり、前者にはトタンや木材で作られた壁や屋根がある。また後者は木陰にベンチが置かれている。

2.3 涼み場

1) 経緯、管理運営 涼み場は地域の高齢者への配慮や自身の快適性のために製作したものが多く、住人が材料を調達して製作するケースや既成品を拾って利用するケースがあるなど、自ら製作するのみではなくそれが難しい場合であっても様々な方法で涼み場をつくることで自発的に場所を形成している。

2) 形状 涼み場にはそれぞれが独立したつくりの涼み台が複数ある場合があり、そのそれぞれについて座面の面積と縦横比により台、ベンチ、長椅子、イスの4種類に分類した(図3)。

台は座るのみでなく、上に乗って寝転ぶこともできるなど、座面の形態的な特徴により、多様なアクティビティを許容することができている。それに対して2~3人が座ることのできるベンチや長椅子では主に腰掛けてくつろぐなどの軽い利用がなされる。1人のみが座ることのできるイスは、その簡易さから自由に木陰などの快適な場所を選びながら移動することができるなど、形状によって様々な使い方を可能にしている。

また、集落ごとに見ても形状のばらつきは少なくなくなり、色々な形状のたまり場が用意されていると言える(図2)。

3) 周辺環境 多くが個別に屋根を作るのではなく、風通しの良さ等を求めて木陰に作られている。また、海を眺望することも多く、木陰による過ごしやすさや飽

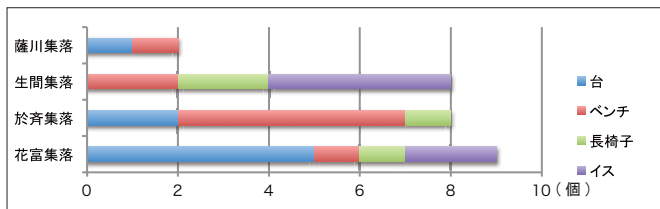
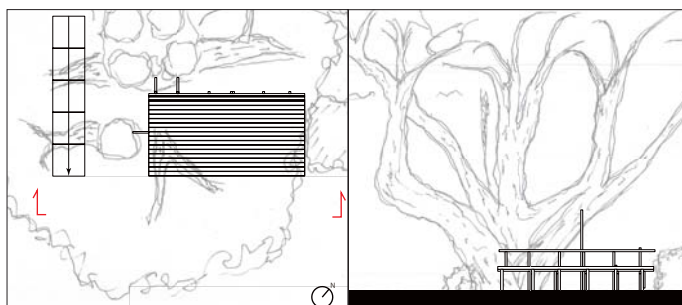


図2 集落ごとのたまり場の形状



きない眺望によってたまり場で過ごすことに快適性がもたらされている。それに対して商店やバス停は屋根があることや木陰がないことが多いことから、その重要性はたまり場によって異なっている。

4) 配置 涼み場の道との関係性を整理するため、涼み台と道との距離によって、道の上に設置されている道路上、涼み台が道に面して置かれていることので多い道路際、ランダムに置かれていたり道に面して置かれていることので少ない道路奥に分類する。

道との関係性の高いものは道から立ち寄りやすく、集落内の移動を助ける役割などを果たしている。また、道との関係性が高い道路際に設置されているたまり場の形状は台が多く、道行く人がそこで寝転んで休憩することができるようになっていたり道空間を豊かにしている(表2)。それだけでなく形態に自由度がある台がその敷地形状に合わせて作られることで、集落内における余剰地を有効に活用していると言える。

3. たまり場の使われ方とその特性

たまり場の使われ方の実態と特性を述べる(表5)。

3.1 利用者属性

1) たまり場ごとの特徴 涼み場の利用者は80歳以上の人が8割以上を占めていることから仕事や畑などが落ち着き、時間に余裕ができた人が涼み場を利用していると言える。商店やバス停は生活における必要性が高いため利用者が多く、護岸は80歳以上の男性の利用者が大半であるということが特徴である。

2) 集落ごとの特徴 花富集落や於齊集落ではたまり場の利用者の性別や年齢に偏りが大きいのに対して生間集落や薩川集落では偏りが少なく、集落ごとの利用者属性に違いが見られる。

3.2 たまり場での過ごし方

特定の人が利用し、その利用時間帯が重なっているプライベート型、特定の人が利用するがその利用時間帯が重なっていないメンバー固定型、不特定または全員が利用するメンバー流動型に分けた。プライベート

表2 たまり場の形状と道との関係

(単位: 個数)

涼み場	道との関係			商店	道との関係			バス停	道との関係		
	道路際	道路奥	道上		道路際	道路奥	道上		道路際	道路奥	道上
台	5	2	1	台	0	0	0	台	0	0	0
ベンチ	2	5	2	ベンチ	0	1	0	ベンチ	0	1	2
イス	2	4	0	イス	0	2	0	イス	0	0	0
長椅子	2	1	1	長椅子	0	0	0	長椅子	2	0	0



図3 形状が台の平面図1:200、立面図1:200(左)と形状がベンチの平面図1:200、立面図1:200(右)

表3 たまり場のつくられ方

涼み場	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	
個数	1つ	1つ	1つ	1つ	1つ	1つ	1つ	2つ	
配置	-	-	-	-	-	-	-	ランダム	
製作者	Y・SKの息子	Y・YK	Y・YK	Y・KK	Y・SKの甥	Y・HK	Y・SK	H・NK	不明
設置時期	10年前	10年前	4.5年前	4年前～現在	20年前	7.8年前	20年前	30年前	不明
製作過程	息子が買って作る	自費で作る	端材で作る	自費、端材で作る	自費で作る	自費で作る	端材で作る	自費で作る	誰かが持ち寄る
土地所有者	県or町	県or町	国	国	国	国	町	集落	集落
涼み台所有者	Y・SKの息子	Y・YK	Y・YK	Y・KK	集落	Y・HK	Y・AK	H・NK	集落
周辺の掃除	Y・SKの息子	Y・YK	近所の人や美化活動	Y・KK	青年	Y・HK	Y・AK	H・NK	H・NK
修繕の有無	有	無	有	無	有	有	無	無	不明
材料	木材、テント、紐	木材	木材	木材	木材	木材、ビール箱、石、ペットボトル	木材	プラスチック	木材
形状	台	長椅子	台	台	台	台	ベンチ	イス	イス
移動の可否	可	可	不可	不可	不可	可	不可	可	可
木陰の有無	無	有	無	無	有	有	有	有	有
屋根の有無	有	無	無	無	無	無	無	無	無
アクセス方向	1	3	1	1	1	3	3	1	4
道との関係	道上	道上	道路際	道路際	道路際	道路奥	道上	道路際	道路際
涼み場	O1				O2			O3	S1
個数	4つ				3つ			1つ	1つ
配置	対面++並列+ランダム				対面+並列			-	-
製作者	町	町	不明	Y・AOの夫	町	町	不明	H・TO	棟梁
設置時期	10年前	10年前	不明	10年前	10年前	10年前	不明	不明	6.7年前
製作過程	町が作る	町が作る	不明	自費で作る	町が作る	町が作る	不明	自費で作る	端材で作る
土地所有者	集落	集落	集落	集落	町	町	町	集落	他集落の人
涼み台所有者	町	町	集落	Y・AOの夫	町	町	集落	H・TO	紫微鑿駕(宿)
周辺の掃除	Y・AOの夫	Y・AOの夫	Y・AOの夫	Y・AOの夫	集落	集落	集落	H・TO	紫微鑿駕、N・MS
修繕の有無	無	無	有	無	無	無	不明	H・TO	有
材料	コンクリート	コンクリート	木材	コンパネ、ビール箱	コンクリート	コンクリート	木材	木材、ビール箱、ブロック	木材
形状	ベンチ	ベンチ	ベンチ	台	ベンチ	ベンチ	長椅子	台	台
移動の可否	不可	不可	可	可	不可	不可	不可	可	不可
木陰の有無	有	有	有	有	有	有	有	有	有
屋根の有無	無	無	無	無	無	無	無	有	無
アクセス方向	3	3	4	4	1	1	2	1	3
道との関係	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道路際	道路奥	道路際	道路奥	道路奥
涼み場	I1		I2		I3			S2	
個数	3つ		2つ		3つ			1つ	
配置	ランダム		ランダム		並列			-	
製作者	T・MI	T・MI	T・MI	S・SIの息子	S・SIの息子	不明	不明	I・HI	N・MSの兄
設置時期	2年前	2年前	2年前	不明	不明	7.8年前	7.8年前	1ヶ月前	20年前
製作過程	もらう	もらう	もらう	拾う	拾う	拾う	拾う	自費で作る	自費で作る
土地所有者	T・MI	T・MI	T・MI	T・MI	T・MI	S・YI	S・YI	S・YI	N・MS
涼み台所有者	T・MI	T・MI	T・MI	無	無	無	無	無	町
周辺の掃除	T・MI	T・MI	T・MI	T・MI	T・MI	S・TI	S・TI	S・TI	気づいた人、学校の先生
修繕の有無	無	無	無	無	無	無	無	無	有
材料	鉄	鉄	ビール箱	木材、ビール箱、ベッド	プラスチック	木材、ビール箱	木材、ビール箱	木材	木材
形状	イス	イス	イス	長椅子	イス	ベンチ	長椅子	ベンチ	ベンチ
移動の可否	可	可	可	不可	可	可	可	可	可
木陰の有無	有	有	有	無	有	有	有	有	有
屋根の有無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
アクセス方向	3	3	4	2	1	1	1	1	3
道との関係	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道路奥	道上
バス停	KB	OB	IB		SB	商店	KS	IS	SS
壁、屋根の有無	有	有	無		無	開店時期	40年前	40年前	70年前
壁の材料	トタン	トタン、木材				経営形態	個人経営	個人経営	個人経営
屋根の材料	木材	トタン、木材				店主	Y・YK	S・YI	S・MS
椅子の材料	木材	木材				営業時間	8:00～12:00、7:00～21:00	9:00～18:00	9:00～19:00
椅子の形状	コの字	I字				建築形態	住宅兼店舗	住宅兼店舗	住宅兼店舗
周辺のしつらえ	有	無				道からの視認性	店内が見える	店内が見える	店内は見えない
製作者	町	集落	H・NI	H・NI	他集落の人	押し置き場所	店内	門の前	門の前
設置時期	45年前	不明	1ヶ月前	1ヶ月前	2.3年前	座るしつらえの有無	店内の段差	有	有
製作過程	町	集落	端材で作る	端材で作る	自費で作る	しつらえの場所	内部	外部	外部
土地所有者	町	集落	県	集落	町	個数	2つ	1つ	-
涼み台所有者	集落	集落	H・NI	H・NI	製作者の姉	配置	並列	-	-
周辺の掃除	集落	集落	集落	集落	気づいた人	製作者	不明	不明	N・MS
修繕の有無	無	無	無	無	無	設置時期	不明	不明	15年前
木陰の有無	無	無	無	有	有	製作過程	誰かが持つてる	もらう	もらう
屋根の有無	有	有	無	無	無	土地所有者	S・YI	S・YS	S・YS
アクセス方向	1	1	4	3	3	しつらえ所有者	無	無	S・YS
道との関係	道路奥	道路奥	道上	道路奥	道上	周辺の掃除	S・YI	S・YS	S・YS
個数			2つ		1つ			ビール箱、木材	
配置			ランダム		-			木材	
材料			木材		木材			移動の可否	
形状			ベンチ		ベンチ			木陰の有無	
移動の可否			可		可			屋根の有無	
								アクセス方向	
								4	
								1	

型は比較的用户者が少なく、飲み会や昼寝をする等アクティビティが多様であることが特徴であり、メンバー固定型では何人かで一緒におしゃべりをする時間と1人で過ごす時間を柔軟に使い分けている。また、メンバー流動型では自分の生活リズムに合わせて利用する中でその場に居合わせた人と交流している。

3.3 たまり場の利用圏

各たまり場から最も遠い住人の家までの距離を基準にそこから等間隔に近距離、中距離、遠距離とした。涼み場の利用圏は花富集落や生間集落では比較的近距離であるが於齊集落ではたまり場によってその利用圏に違いがある。また薩川集落はどこかへ行くついでに利用することが多く、利用圏が広い傾向にある。

それに対して、商店やバス停は生活における必要性の高さから自宅からの距離に関わらず利用されているが、護岸では利用圏が狭くなっている。

3.4 たまり場の使い分け

花富集落と於齊集落では住人1人が利用するたまり場の数が比較的小さくなっており、それぞれの利用はあまり重ならず、領域が区分されやすくなっている。そのため住人同士のつながりはあまり拡大しない。また花富集落では商店とバス停を全員が利用することで、全体のつながりを形成している。それに対して於齊集落ではバス停や護岸の利用も少なく、それぞれが独立した利用となっている。

複数のたまり場を利用している人が多く、比較的領域の区分がされていない生間集落や薩川集落では商店やバス停を含めてたまり場間の行き来が多くなっており、住人同士の繋がりが広がりやすい。

3.5 利用する涼み場の数と利用圏

涼み場の使い分けと利用圏との関係を見ると、涼み場を使い分けている人は利用圏に関わらず一箇所のみ利用者とはほぼ同数かそれ以上となっている(表4)。

このことより涼み場は自宅から近い利用者のみが複数の涼み場を使い分けながら利用するのではなく、自宅から遠い利用者であっても繋がりを増やすことや場所を変えながら利用することに積極的であると言える。

4. 1日の生活行動におけるたまり場の位置づけ

4.1 たまり場の役割

1) **楽しみ** 人口減少に伴い、単身の高齢者世帯も増える中でこのような楽しみのある場があることが外出する契

表4 利用する涼み場の数と利用圏との関係(単位:個数)

		利用する涼み場の数	
		1箇所	複数
利用圏	遠距離	4	3
	中距離	7	12
	近距離	17	19

機となり元気の源となっている。

2) **くつろぎ** 普段の生活の拠点である家や仕事場、畑とは異なり、海やガジュマルの木などの自然を眺めながらリラックスすることができる場所となっている。

3) **偶発的な出会いの創出** 例えばたまり場にてお昼ごはんを食べているとそこを通りがかった人とおしゃべりをするなど、道行く人と出会うきっかけとなる。

4) **交流関係を広げる** 複数のたまり場が集落内にあることで普段あまり交流する機会のない人とも話さきっかけとなり、自分の交流関係を広げることができる。

5) **情報共有** 年配者の昔の話や祭り等の伝統など異世代の人と話すことで自分の知らない情報を知る。

6) **集落運営をする場** 集会を開くことに加え、日常生活の中で青年たちが話し合うきっかけが生まれている。

7) **状況把握** たまり場を利用する人同士の生活リズムを知っていることで、不慮の事態を早く発見でき、お互いに見守りながら生活することができている。

4.2 たまり場での1日の生活行動

図5はK5利用者の1日の生活行動である。N・NK2は10時から12時、14時から14時半、15時から19時までの3回と、日中の殆どの時間をK5で過ごしている。午前中はあまり他の利用者がいないため、家で家事などをしながら少しでも休憩したいと思った時にはすぐにK5で休憩している。しかし夕方は他の利用者が集まるためその利用者たちとおしゃべりを楽しみにするなど、1日の中でもたまり場を使い分けている。利用する回数が非常に多く、自分の家の一部であるような感覚でたまり場を利用している。

5. たまり場によるコミュニティの特性

5.1 たまり場によるコミュニティの形成

住人同士の交流によって各集落ではたまり場によるコミュニティが形成されている。たまり場ごとの使い分けなどによってその特性が異なり、キーパーソン型、独立型、重複利用型の3つのタイプに分類した。

5.2 各タイプの特性

1) **キーパーソン型** キーパーソン型ではたまり場によるコミュニティが幾つか存在する中で、それぞれが分

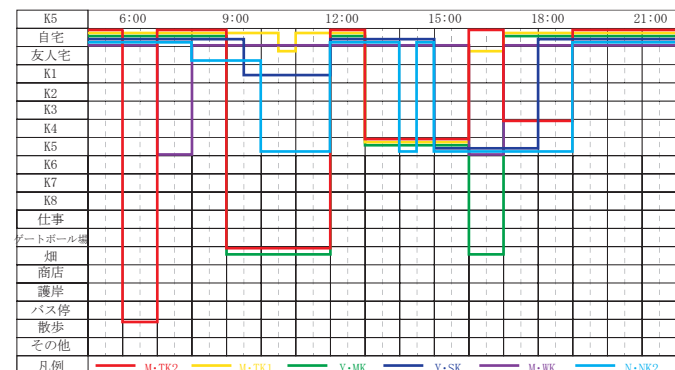


図4 K5利用者の1日の生活行動

表5 たまり場の利用方法

利用種別	性別	年齢	同居人数	利用頻度	利用時間帯	不特定利用	全員利用	アクティビティ	利用圏	利用するたまり場						
										K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG						
花岡集落	涼み場	Y-SK	女	89	1人	毎日			プライベート型	10:00~12:00, 14:00~15:00	無	無	寝転ぶ、おしゃべり、カセットを聞く、涼む(3~11月)	近距離	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG	
		M-TK2	女	80	1人	週1回程度	14:00~15:00			プライベート型				おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		K2								メンバー流動型				利用なし		
		K3								メンバー流動型				利用なし		
		M-WK	女	81	1人	週2.3回程度	8:00~12:00, 17:00~21:00の2.30分			有	無			店、散歩のついでに休憩する	近+中	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG
		Y-YK	男	90	2人	毎日	15:00~18:00, 21:30~22:30			有	無			体操、呑む、軽作業、掃除、涼む、洗濯物を干す	中距離	
	M-TK2	女	80	1人	週2.3回程度	8:00~12:00, 17:00~21:00の1時間							店、散歩のついでに休憩する	中距離		
	K4								プライベート型					近+中+中遠	K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG	
	M-HK	男	60	3人	毎日	18:00~							呑む(年中)	中距離		
	M-TK2	女	80	1人	毎日	17:00~19:00							差し入れておしゃべり	近距離		
	H-HK	男	62	2人	毎日	18:00~							呑む(年中)	遠距離		
	Y-KK	男	62	1人	毎日	18:00~							呑む(年中)	近距離		
	Y-YK	男	90	2人	週1回程度	18:00~							呑む(年中)	中距離		
	K5								メンバー固定型					近+中+中遠	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG	
	Y-SK	女	89	1人	毎日	15:00~18:00							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG	
	M-TK2	女	80	1人	毎日	6:30~7:30, 13:00~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近距離		
	T-SK	女	75	1人	毎日	13:00~14:30							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	中距離		
	M-WK	女	81	1人	毎日	7:00~8:00, 16:00~17:00							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近距離		
Y-MK	女	91	2人	毎日	14:00~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近距離			
M-TK1	女	89	1人	毎日	13:00~14:30							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近距離			
N-NK2	女	96	2人	毎日	10:00~12:00, 14:00~14:30, 15:00~18:00							おしゃべり、涼む(3~11月)、寝転ぶ、歌う、海を眺める	近距離			
K6								プライベート型					近	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG		
Y-HK	男	82	2人	毎日	13:00~15:30							昼寝、涼む(3~11月)、カセットを聞く	近距離			
K7								プライベート型					近	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG		
Y-AK	女	82	2人	毎日	9:00~10:00							煙の体験	近距離			
K8								プライベート型					近	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG		
N-NK1	男	90	1人	毎日	16:00~16:30							涼む(3~11月)	近距離			
商店	KS	全員						メンバー流動型								
バス停	KB	全員						メンバー流動型								
護岸	KG	全員						メンバー流動型								
M-HK	男	60	3人	毎日	18:00~							呑む	近+中	K1 K2 K3 K4 K5 K6 K7 K8 KS XB KG		
Y-YK	男	90	1人	毎日	18:00~							呑む	近距離			
N-NK1	男	90	1人	毎日	16:30~17:00							涼む(3~11月)	近距離			
H-HK	男	62	2人	毎日	18:00~							呑む	中距離			
Y-AK	女	82	2人	毎日	19:00~20:00							呑む	近距離			
Y-HK	男	82	2人	毎日	19:00~20:00							呑む	近距離			
於齊集落	涼み場	O1							メンバー流動型					近+中	O1 O2 O3 OS OB OG	
		N-UO	女	88	2人	毎日	13:30~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		S-YO	女	77	2人	毎日	14:00~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		N-MO	男	91	1人	毎日	14:00~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		Y-AO	女	87	2人	毎日	13:00~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離	
		Y-MO	男	87	2人	毎日	14:00~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
	T-KO	女	60	2人	毎日	14:00~16:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離		
	O2								メンバー流動型					近+中+中遠	O1 O2 O3 OS OB OG	
	I-SO	女	88	2人	毎日	10:00~11:30, 15:00~17:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	H-TO2	女	84	2人	週3回程度	13:00~14:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	H-TO1	男	86	1人	毎日	13:00~15:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	I-KO	男	85	1人	毎日	7:00~17:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離		
	N-KO	男	91	1人	毎日	10:00~11:30							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	N-HO	男	65	4人	週2.3回程度	7:00~17:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	N-UO	女	88	2人	週4回程度	14:30~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離		
	O3								プライベート型					近	O1 O2 O3 OS OB OG	
	H-TO1	男	86	1人	毎日	8:30~11:30							涼む(3~11月)、読書、昼寝	近距離		
	商店	OB	全員						メンバー流動型							
バス停	I-SO	女	88	2人	週1回程度	10:03, 13:48, 17:08							バスを待つ	中距離		
護岸	OG	全員						メンバー流動型								
H-TO1	男	86	1人	毎日	5:30~6:00								近+中	O1 O2 O3 OS OB OG		
I-KO	男	85	1人	毎日	5:30~6:00								近距離			
生間集落	涼み場	I1							メンバー固定型					近+中	I1 I2 I3 IS IB IG	
		T-MI1	女	82	1人	毎日	8:00~12:00							おしゃべり、草むしり	近距離	
		S-TI	女	86	2人	毎日	13:00~14:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離	
		S-SI	女	81	4人	毎日	15:00~18:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離	
		H-KI	女	75	2人	毎日	15:00~17:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		S-HI	女	89	1人	毎日	15:00~18:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離	
	Y-SI	女	86	2人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	I2								メンバー固定型					近+中	I1 I2 I3 IS IB IG	
	T-MI1	女	82	1人	毎日	14:00~15:30							おしゃべり、草むしり	近距離		
	S-TI	女	86	2人	毎日	14:00~15:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	S-SI	女	81	2人	毎日	13:00~15:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	H-KI	女	75	2人	毎日	15:00~17:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離		
	S-HI	女	89	1人	毎日	13:00~15:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	Y-SI	女	86	2人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	I3								メンバー流動型					近+中	I1 I2 I3 IS IB IG	
	K-HI	男	81	1人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	遠距離		
	S-TI	女	86	2人	毎日	8:00~9:00, 16:00~17:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
	S-YI	男	60	2人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離		
H-KI	女	75	2人	週4回程度	10:00~12:00, 14:00~18:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離			
S-HI	女	89	1人	週2.3回程度	10:00~12:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離			
S-MI	女	80	2人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離			
S-MI2	女	84	1人	毎日	9:00~18:00の間							おしゃべり、涼む(3~11月)	近距離			
商店	IS	全員						メンバー流動型								
バス停	IB	全員						メンバー流動型								
護岸								メンバー流動型								
N-TS1	女	90	2人	月1回程度	10:00~11:00								墓参りのついでに休憩する	中距離		
N-TS2	女	92	2人	毎日	7:00~17:00の間								散歩の休憩	遠距離		
N-SS	男	94	2人	月1回程度	9:00~9:30								墓参りのついでに景色を見る	遠距離		
U-US	女	87	1人	月1回程度	16:00~17:00								涼む(3~11月)	中距離		
N-HS	女	81	4人	毎日	7:30~8:00								煙に行くついでに休憩する	近距離		
薩川集落	涼み場	S1							メンバー流動型					近+中+中遠	S1 S2 SS SB SG	
		N-TS2	女	92	2人	毎日	7:00~17:00の間							散歩の休憩	遠距離	
		U-US	女	87	1人	週2.3回程度	15:00~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		N-HS	女	81	4人	週2.3回程度	15:00~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		Y-SS	女	81	1人	週2.3回程度	15:00~16:00							おしゃべり、涼む(3~11月)	中距離	
		I-Y	女	98	1人	週4.5回程度	7:00~17:00の間							散歩の休憩	中距離	
	S2								メンバー流動型					近+中+中遠	S1 S2 SS SB SG	
	N-TS1	女	90	2人	月1回程度	10:00~11:00							墓参りのついでに休憩する	中距離		
	N-TS2	女	92	2人	毎日	7:00~17:00の間							散歩の休憩	遠距離		
	N-SS	男	94	2人	月1回程度	9:00~9:30							墓参りのついでに景色を見る	遠距離		
	U-US	女	87	1人	月1回程度	16:00~17:00							涼む(3~11月)	中距離		
	N-HS	女	81	4人	毎日	7:30~8:00										

散しながらも複数のたまり場にわたり利用している人がいる。その人を中心に普段あまり外出しない人やプライベートな利用が多い人にも繋がりが広がっている。

2) **独立型** 独立型では複数あるたまり場によるコミュニティ同士のつながりが少ない。たまり場の利用者同士の繋がりが非常に強いコミュニティや自分の生活のペースに合わせて利用する人が多いコミュニティなど、それぞれの場所での過ごし方に特徴がある。

3) **重複利用型** 重複利用型では複数あるたまり場の利用者が重なっていることが多く、それぞれの行き来が多い。そのためつながりが広がりやすく、生活の中におけるたまり場の重要性が大きいことが多い。

5.3 特性の違いが生じる要因

キーパーソン型では集落内にたまり場の数が多いためプライベート性に差異が生まれやすくなっている。その中の少数の利用者がたまり場を使い分けることによってキーパーソンが生まれる。それに対して独立型、重複利用型では比較的たまり場の数が少なくなっている。前者ではその場所ごとの快適性や立地の違いが大きく、住人が利用するのに適した場所を選んでいるためそれぞれが独立したコミュニティとなる。また、後者では場所ごとの違いにこだわらずに利用することからたまり場ごとの行き来が多くなっている。

6. まとめ

①**たまり場のつくられ方** 住人自身が自発的に形成したたまり場は様々な形状のものがあり、多様な使いこなしを許容できるようになっている。また、過ごしやすい周辺環境を選ぶことで、たまる行為自体の快適性を確保している。それらは道との距離感などを変えながら、集落内に分布することで日常的な利用を促すものとなっている。

②**たまり場の使われ方** 主に時間にゆとりのある高齢者が利用するたまり場は場所によって過ごし方も様々であり、公共的な場所に設置されているものの中でもそのプライベートの性質は異なる。また、たまり場を

使い分けている利用者の人数は利用圏に関わらずあまり変わらないことより、自宅からたまり場までの距離が遠い人であっても繋がりを増やすことや場所を変えながら利用することに積極的であると言える。

③**住人の1日の生活における位置づけ** たまり場が住人それぞれによって変化する位置づけを有することで集落内での多様な生活を実現することに貢献している。

④**コミュニティ** コミュニティの特性ごとに繋がりの形成のされ方は異なるが、元々つながりがある住人同士の関係性が強くなったり、また直接交流の無い者同士にも間接的な繋がりが形成されるなど、人的ネットワークの増強と拡大に役立っている。

自分の生活の幅や交流の幅を広げるたまり場は商店やバス停といった生活における重要性の高い場所との位置関係を考えることで、ついで利用や利用圏を広げることができる。また、人通りの多い道沿いなど気配を感じやすい場所を選ぶことで利用を促すことが可能となる。地域資源を活かすことができるような木陰や海際などの快適な場所を選定することが重要だが、その快適性の変化や住人の生活リズムによって利用時間や人が限定される程プライベートな利用になるという特徴がある。このようなたまり場は画一的な形態ではなく、様々な面積や縦横比のものをつくることで多様なアクティビティを許容できるのである。

参考文献：1) 国土交通省「離島の現状について」2012年2) 山内清史他「住空間としての bale-bale の役割とコモンスペースの形成に関する研究—インドネシア Lae・Iae 島を事例として—」日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、2011.08 3) 黒坂泰弘他「限界化集落における住民のたむろ場に関する基礎的研究—積丹町大字美国町に注目して—」日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、2013.08 4) 平岡翔太「縮減化社会におけるホスピス型地域づくりに関する研究」2011.02 修士論文 5) 奥本裕美子「過疎地域におけるホスピス型地域づくりに関する研究」2013.02 修士論文 6) 清かおり「地縁・血縁関係からみた離島におけるホスピス型地域の生活実態」2015.02 修士論文

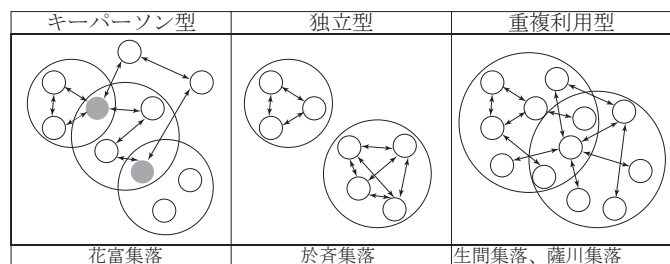


図5 コミュニティのタイプ

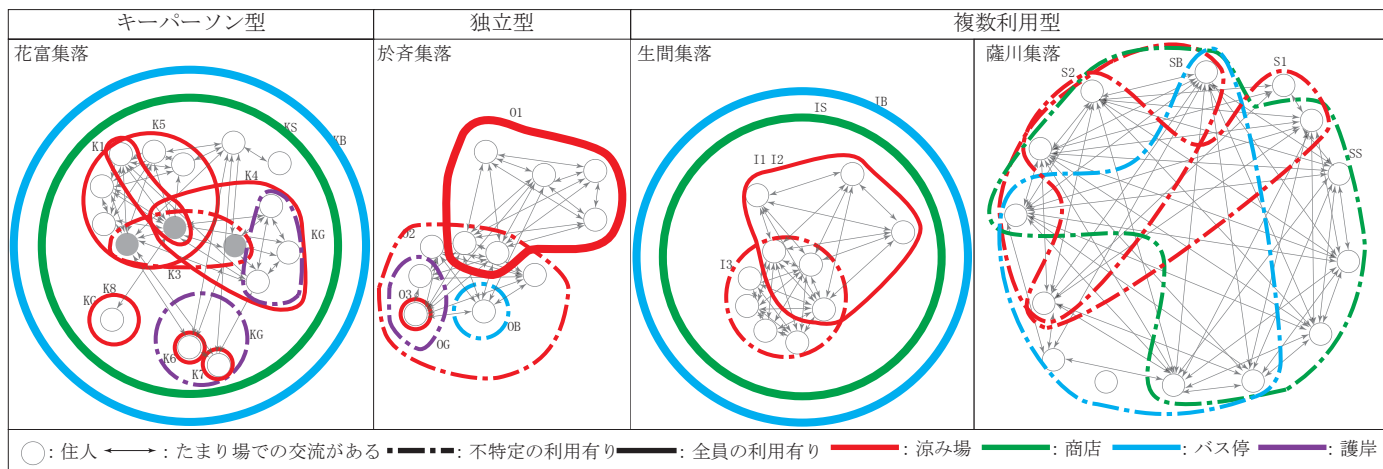


図6 集落ごとのたまり場によるコミュニティ

討議

討議 [佐久間先生]

すげー、面白かったです。膨大な調査をして、今日のプレゼンテーションでも十分出てなかったと思うんですけど、護岸でお酒飲んでる青年の話とかそれを聞くおばちゃんの話とか、仕事終わった後落ち合う夫婦の話とか、すごいおもしろかったです。でたまり場貢献度としてはすごい面白かっただけにこの知見が社会に接続してないというか超マニアックなことになってるんですが、そこ頑張れよと思います。で質問は2つなんですけど、なぜ加計呂麻島なのかということは説明して欲しいなと思います。2年前に加計呂麻島に調査で車で周ったことがあるし、それはわかるんですけど、例えば北海道の離島と加計呂麻島は様相が全然違うと思うし、やっぱり加計呂麻島を選んだのはとか、全国の中で加計呂麻島のたまり場を選んだ理由は説明して欲しいと思います。でもう一つは、得られた知見が、今過疎地で国交省なんか小さな拠点づくりとか、たまり場が大事だということわかってるんですけど、それがたまり場大事なんですという知見で終わらたら面白くもなんともなくて、たまり場がどう置かれてどうあると良いのかとか計画的なところに手が届くだけのデータはあると思うんですけど、たまり場良いよねっていう結論になってるのが不満です。やっぱり社会と、過疎地でたまり場どうつくっていくのかという議論に対して知見を届けて欲しいと思うので、それはどう役立てうるのかということの、入り口と出口なんですけど、2点教えて下さい。

回答

まずなぜ加計呂麻島なのかという話は、1つは個人的な話で去年先輩の調査に着いて行った時に感銘を受けたから。

討議 [佐久間先生]

それはそうなんですけど、それを客観的に社会の言葉で説明して欲しいです。

回答

まず、他の過疎地域における居場所の研究に関してもそうなんですけど、既存の建物や既存の公共的な施設の使いこなしなどによってそういう場所を居場所にしていくということがほとんどで、その点に関して加計呂麻島は異なっていて、自分たちでそういう場所をつくっていつているという点が1つ大きな点で違うと思います。他の島でも涼むといった慣習であったり、たまるという慣習はあるとおもんですけど、それが島の地理的な状況が温暖な地域にあるということから色濃く今も残っているということから加計呂麻島が良いのではないかと思ひ選びました。2点目に関して、

それが今後どう作られるのが良いのかという点に関しては、やはり説明にもあったように様々な形状があって、それに合わせて様々な使い方が促されていったり、また住人が自らどこが快適なのかということを探しながらそこに場所をつくっているところから、今は例えば誰かが作ったものを他の人が使いこなしているということが非常に多く見受けられるんですけど、それだけではなくて住人自らがどういう使い方をしたのかであったり、自分がしたい使い方にするにはどうすればよいのかということをもう少し利用する側が考えてそれを計画に生かしていくと良いんじゃないかなと思います。

討議 [佐久間先生]

たぶん立地も利用者から見たらわかるんですけど、人の利用が重なる所であったり、そういうことである一定出てると思うんですけどそれを、今回つくられ方が前に来てるんですけどそれを研究の最後に持って行って、こういうことがこういった立地とかで行われているって言うように結論にしてくれればまだつなげやすいかなと思いました。

討議 [日野先生]

佐久間先生とか地方の研究とかしている人はすごく理解してると思うんですけど、もっと一般的にドライな言い方をするとすれば、加計呂麻島どころかなぜ離島なのかということや、過疎地とかをどのようにしていこうとしているのかを知りたいなと思ひまして、今聞いてると限界集落化しているところでたまり場つくっても高齢者ばかりですよ、しかも気になるのは地縁血縁で、共同体意識が強いということですよ、排他的に見えるんですね。排他的であって、そのままいくとおそらく、なくなりますよね。そうすると終末期の施設整備みたいに聞こえてしまうので、こういうところがどうあるべきなのかということによって、たぶん求めるべきものがね、それはそれで良いと思うんですよ、血縁関係だけであと何年かすれば無くなるんだということね、それはそれで良いと思うんですけど、そもそもどういう風に捉えているのかということの本当はもっと聞きたいなと、そうでなくたまたま加計呂麻島でもなんでも良いんだけれども、1つの例として挙げていて無くなっても良いやんという方向の中でその間のコミュニティをどう維持していくのかということであればそれはそれで良いと思うし、そうじゃなくてもっと外から呼ぼうとか今流行りの若い世代のやつもあるじゃないですか、そうであるならもっと違うような形で無いと今の地縁血縁のようなものならばなかなか上手く行かないと思うのでその部分の意見を聞きたいなと思います。

回答

まず始めに人口が減って行って、ゆくゆくは集落自体が無くなってしまわないかということに関してはそれほど否定的な視点では見ていなくて、それをある程度肯定的に見た上で、じゃあ人が減っていく中で住人同士の繋がりがどうすれば良くなっていくのか、生活の質を上げることができるのかということを考えて時にたまり場が上手く役立っているということがあるのが一点と、自分が実際に調査した集落の中でも I ターンという形で他の地域から来ている方もいらっしゃいまして、その方もたまり場を通してもともと住んでいる集落の方と交流をしたり、そこで繋がりができたりしているので人口が増えていくことに寄与するかはわからないんですけど、そういった他からの移住者にとってもたまり場がもともといる人との繋がりをつくるような場となっているとうことはありました。

討議 [日野先生]

じゃあそこをもっと言ってくればよくて、冒頭から共同体意識が強くて、それが良いということを書いているので外のやつは排除で、中だけでやろうということなら、無くなることを想定してそういう最後の楽しみというようになっているのは良いのかということが気になったので。